Japan Society of Obstetrics and Gynecology

關し不完全性を有する事を知つた.

71. 卵管纖毛運動に關する研究

山田 文夫(大阪市立醫大)

蛙卵管の切片像並に內腔表面像を組織學的に觀察し卵管間膜附着部及びその反對側に於ける皺襞, 粘液腺, 纖毛細胞の配列等の形態學的差異を認めた上, 卵管纖毛運動の直接觀察, 異物運搬實驗, 更に組織匍匐實驗等に依り間膜附着部の內面に於ては從來考えられなかつた上向性纖毛流の存する事を發見した. 尙かつ異物運搬實驗により纖毛運動の仕事量を算出し, 更に剝離した纖毛細胞の纖毛運動に對する各種アルコール, 各種イオンの作用を檢し, 前者に於てはトラウベの法則, オストワルトの毒作用方程式の適合する事を證明し, 後者に於ては生物體に及ぼすイオンの影響を觀察した. 卵管の上向性纖毛流はパーカー氏により龜で, 三村氏により鷄で發見されたのみであるが, 兩者は之を精子上行に役立つと考えた. 然し鷄卵管の一部(蛋白分泌腺部)のみに上向流の存する事は不合理であり, 又體外受精を行う蛙では本說は當はまらない. 此の上向性纖毛流を卵の廻轉による形の補正, 及び卵膠狀被膜附着に役立つと考えると比較生理學的にみて少くとも下級脊椎動物のすべてに適合する.

72. 子宮腟部癌患者に於ける生體內癌組織の糖消費と之に及ぼす葡萄糖及びアドレナリン負荷の影響に就て

神崎 良介(九 大)

子宮腟部癌患者正常時に於ける癌組織を灌流する動脈と靜脈の血糖量は動脈の方が大きくその差は少くとも平均 13 mg%以上で正常子宮體部組織子宮筋腫組織妊娠子宮體部組織及び前腕組織等の對照組織を灌流する動脈と靜脈の血中糖量の差の夫々の平均値 4 mg%, 5 mg%, 4 mg%, 4 mg%の何れよりも大きい. これは癌組織により糖が消費せられるためでその消費量は癌組織の大小に應ずるものと推測することが出來る. 子宮腟部癌患者の生體內可及的自然の儘の狀態に於ける癌組織の糖消費は剔出組織に於けると同樣に旺盛である.

子宮腟部癌患者に 20%葡萄糖 40 cc を靜脈內に負荷する時癌組織を灌流する動脈と靜脈の血糖量の差は葡萄糖注入繼續中急速に增大し注入中止直後最大となりその後減入する. 前腕組織の對照實驗に於ても葡萄糖負荷に依り動靜脈血糖量の差は同樣に消長するが增大量は癌組織の方が大きい. 子宮腟部癌患者の癌組織の糖消費は葡萄糖負荷過血糖時は正常時よりも更に旺盛となる.

73. 硫酸銅法による子宮癌患者の血液性狀變化に就て

木原行男, 安樂兼昌(九大)

吾教室外來及び入院患者約 240 例に就て, 特に子宮癌手術例, レントゲン照射例, 及び他の疾患手術例に於て, 主として硫酸銅法に依る血液比重の增減を測定し, 更に之より血漿蛋白質量, 血色素, ヘマトクリット, 酸素抱合能等の推移を觀察し, 併せて赤白血球數, 血壓, 赤血球沈降速度等の測定を參考として行い, 要約次の如き結果を得. 一般に子宮癌及び子宮筋腫に於て血液比重の著しき減少を見た. 又手術例では, 血色素, 血漿蛋白質は術前値が著しく增加し, 第1週に激減, 第2週にて最低値を示し, 術後4週に尙入院時のそれに達せず, 子宮癌では特に變動甚しく特異的である. 手術自體の影響は區々であるが, 血色素は稍〻減少, 白血球は著しく增加する. 廣汎性手術例では他に比し, 著しく變動が大で, 第1週より既に最低値に達す. 又術後合併症例では, 術後血色素恢復が遲く, 術後輸血例では上昇が稍〻速かである. レントゲン照射に依る影響では, 一般に白血球數減少を來し, 血漿蛋白質は, 稍〻增加の傾向を示し, その他の變動は著明に認められない.

74. 子宮癌患者血淸の紫外部吸收スペクトルに就て

木原行男, 日高英幸(九大)

子宮癌物質代謝探求の目的の一部として島津石英分光寫眞器 QF—60 型, スペツカー分光々度を使用して, 子宮癌 30 例, 對稱として健康者, 妊婦, 子宮筋腫, 卵巢囊腫, 子癇, 惡性絨毛上皮腫等 24 例について血淸の紫外部吸收スペクトルを撮影した結果, 血淸そのものでは癌特異性は認められなかつたが, 除蛋白血淸では子宮癌, 惡性絨毛上皮

NII-Electronic Library Service